



ぐるり庄原 Look Around Shobara カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。



▲森林の大切さを学んでお礼をしました

庄原の豊かな森林から学ぶ 口和で森林教室開催 REPORT ③

口和町の釜峰山森林浴公園で4月28日、口南小学校の児童が参加のもと森林教室が行われました。保水力など森林の持つ役割を広島県北部森林管理所職員が紙芝居を使って説明。児童たちは森林の大切さを楽しく学びました。その後、参加者全員で釜峰山に登り、ゲームなど、自然の中で楽しみました。気温の低い日が続いた影響で、木々の若葉がやっと芽吹き始めたところでしたが、児童たちは鳥のさえずりや草木のにおい、木漏れ日やそよ風を五感で感じながら自然の大切さを体験しました。

REPORT ④ 野外教育の拠点施設として再び 「ふるさと村高暮」再出発

高野宿泊研修施設(ふるさと村高暮)で4月18日、「ふるさと村高暮再出発の集い」が開催されました。この施設は、維持管理を依頼された個人とのトラブルにより、平成18年から利用ができなくなりましたが、昨年、相手方との和解が成立し、再び施設の正常な利活用が可能となりました。当日は、新たに指定管理を受けた高暮自治振興区(牧原利光区長)区民のほか、これまで「ふるさと村高暮」を地域の外から支え応援してきた有志など約50人が参加し、「ふるさと村高暮」の再出発の喜びを分かち合いました。集いでは、満開となった桜を仰ぎつつ、再出発を記念して桜の記念植樹が行われました。また、自然環境を活かした「ふるさと村高暮」の利活用について活発な意見交換が行われました。

神之瀬峡の豊かな自然を森林環境教育や、高暮ダムの歴史に学ぶ平和学習の場として、子ども会やクラブ活動の合宿などに皆さんも利用してみたいでしょうか？



▲ふるさと村高暮の再出発を彩る満開の桜

笑顔満開みんなで作ろう 第11回しあわせ館まつり REPORT ⑤

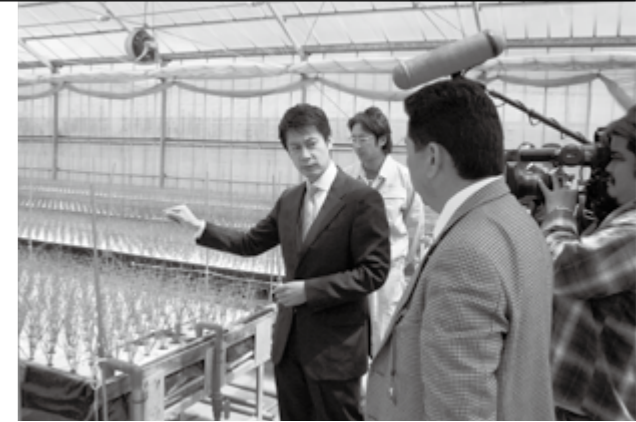


▲会場がひとつになって合唱

西城保健福祉総合センターしあわせ館で4月18日、第11回しあわせ館まつりが開催されました。しあわせ館まつりは、準備から片付けまでをみんなで行う、参加者一人ひとりが主人公の祭りです。人や物がにぎやかに行き交ったかつての町並みを思い出しながら「しあわせ館の歌」や「汽車ぼっぼ」などの合唱でまつりがスタート。日頃、しあわせ館で活動をしているボランティアグループや地元の民謡同好会などのステージ発表や作品展示、バザーなどが行われました。今年は比婆荒神神楽子ども神楽塾が初お目見えし、9人の子どもの愛らしくりりしい舞がステージを盛り上げました。会場の壁面には、町内から応募のあった笑顔写真も飾られ、笑顔と元気に包まれた1日となりました。

地域の宝を掘り起こす 県政知事懇談 REPORT ①

広島県知事が県民に広く意見を聞く、県政知事懇談「湯崎英彦の宝さがし」が4月24日、庄原市を会場に開催されました。この県政知事懇談は、県内の宝さがしの一環として、知事自らが県内各地を訪問し、県民との直接対話を通して県勢の発展を目指すことを目的に開催されるもので、庄原市が5会場目、県北では初めての開催となりました。この日知事は、午前中に三楽荘など市内の施設や農業参入企業などを視察し、地域の宝を探索。午後から、



▲地域の宝をさがして市内を行脚



▲多くの人が傍聴におとずれる

市役所本庁舎1階ロビーで約90人が傍聴する中懇談会が行われました。懇談会には、あらかじめ選出された市内各地、各分野で活躍している10人が市民代表として参加。それぞれの実践を通じて感じている生の声、率直な意見を知事に投げ掛けました。参加者は、「懇談会はずごく意義あること。継続して開催し、次は宿泊つきで来てもらいたい」と熱く求めました。湯崎知事は、「庄原市の皆さんは郷土愛にあふれている。いただいた提言や意見を今後の県政運営につなげたい」と話していました。

REPORT ② みんな元気で寝込まんぞ〜 帝釈ねこマン体操お披露目会

帝釈公民館で3月25日、「帝釈ねこマン体操」のお披露目会がありました。「ねこマン」とは「寝込まないように」の思いが込められたネーミング。帝釈老寿会会長の明賀茂雄さんと事務局の川上貢さんが、「生活の中で続けられる、転倒予防や介護予防につながる高齢者のための体操を地域に広げることができないか」と、東城町久代在住の健康運動指導士大田みどりさんと帝釈公民館に相談したのがきっかけ。大田さんは、2人が日ごろ体にいいからと続けている体操をもとに、高齢者向けにやさしい筋トレやストレッチ・リンパマッサージなどの要素を取り入れ、「ねこマン体操」として完成させました。朝晩布団の上や椅子に座ってできる体操、お風呂の中で行う体操など、誰にでもできるやさしい体操ばかり。参加者は、「気持ちがいい」「血のめぐりが良くなってほかほかする」と笑顔で話していました。今春から、

帝釈公民館は帝釈自治振興センターになりましたが、「通信や健康教室でお知らせしたり、集まったときにはみんな実践して広めたい。」と話しています。



▲ねこマン体操を体験する参加者

カメラ小僧集まる!! 山王さんの早駆馬神事奉納

REPORT ⑨

春の庄原の風物詩となっている、山内町の「山王さん」日吉神社の早駆馬神事が、4月18日にとり行われました。戦国時代に由来を持つこの神事は、三騎の早駆馬がお宮へ向かって参道を駆け上がる勇壮な姿で知られています。

昨年からは写真コンテストが行われるようになったこともあり、カメラを構えるシニア世代から親子連れまで、県内外から多くの人出で賑わいました。神事はほぼ一日をかけて行われ、早駆馬のほか、巫女による舞も披露されました。早くから訪れたカメラマンたちは、思い思いの位置に陣取り、自分だけのシャッターチャンスを狙っていました。

境内には昨年の写真コンテスト応募作品のパネルが展示されたほか、国指定重要文化財の「赤糸威鎧 兜・大袖付」も公開されました。

今年の写真コンテストの結果は6月中旬に決定し、市内で展示会が開催される予定です。



▲「今だ!シャッターチャンス!」心の声が聞こえてきそうです。

REPORT ⑩

満開の桜が雪化粧 高野などで季節外れの雪

庄原市内は4月15日、上空に入り込んだ寒気の影響で、高野など標高の高い地域で季節外れの雪になりました。

この日の早朝、県天然記念物に指定される「円正寺のシダレザクラ」には、6分咲きの桜にうっすらと雪が積もり、珍しい雪景色となりました。近所の方は桜を見上げ「ピンクの花びらに白い雪が積るとと幻想的」と思わぬ雪を楽しんでいました。

円正寺の伊達崇史住職は「短時間で雪が消えたが、こんな雪景色は記憶にない」と、桜の雪化粧をカメラに収めていました。



▲うっすらと雪化粧した円正寺のシダレザクラ

実留1区自治会が住宅用火災警報器を共同購入 高齢者世帯へ地元消防団がボランティアで設置

REPORT ⑪



▲設置作業を行なう消防団員

住民の安心と安全を守るため、住宅用火災警報器を設置していない家庭に設置してもらおうと、実留1区自治会(岡本利郷会長)が、地域単位で住宅用火災警報器の共同購入に取り組み、18世帯が購入しました。

4月25日には、地元市消防団敷信分団(廣田修蔵分団長)が、高齢者世帯など住宅用火災警報器の取り付けが困難な家庭に向き、ボランティア活動として警報器の取り付け作業を行いました。

来年5月31日の設置期限を前に、住宅用火災警報器を共同購入する自治会などが増えており、庄原消防署などは引き続き設置を呼びかけています。

REPORT ⑥

比和をギュ〜っと「牛たきこみ」登場 比和の特産市場オープン

比和町木屋原にある特産市場が4月18日、今年の営業を開始しました。

当日は、杵つきもちの実演・販売・そば饅頭(じねんじょ入りそば100%)の販売、特産汁の無料サービスも行われ、また、店頭には春の山菜・新鮮野菜・加工品等が並び、朝8時からオープンを待ちわびていた町内外の人達で賑わいました。

今年は、広島牛のルーツ"あづま蔓"を育て、牛市で栄えた比和の秘話を、ぎゅっと炊き込んだ「牛たきこみ」を販売。

比和の特産市場は毎週土・日曜日の午前7時から正午まで(1月〜3月休業)営業しています。



▲「牛たきこみ」登場

▲「買い物客で賑わう市場内」

灰塚ダムに笑顔が集う 抱きしめて笑湖ハイツカが開催

REPORT ⑦



▲世界一の夢提灯

庄原市と三次市にまたがる灰塚ダム周辺施設10会場で、3万人で手を繋いでダム湖を囲むプロジェクト「抱きしめて笑湖ハイツカ」が5月4日、快晴の空のもと開催されました。

「3万人で手を繋ぐ」目標には届きませんでした。約1万人(主催者発表)がこの取り組みに参加し、正午に合わせ10会場で同時に手を繋ぎ、ハイツカを笑顔で包み込みました。

庄原市の3会場では、それぞれ特徴的な催しが行われ、

田総の里なかつくに公園では、公園内を使った体験・参加型の各種イベントや、総領町出身歌手「やまさきあや」さんのコンサート、癒香の杜では、世界一の夢提灯のお披露目や、フォークシンガー笠木透さんのコンサート、副ダムでは、山野草を摘んでその場で調理して食べる「春を食べる会」や、キャンプソング大会などで盛り上がりました。



▲やまさきあやさんの歌声が響く

REPORT ⑧

観光シーズンの幕開けを祝う 帝釈峡湖水開き

鮮やかな新緑と絶好の観光日和の中「第43回帝釈峡湖水開き」が4月29日、神龍湖で行われ、朝早くから多くの観光客で賑わいました。

今シーズンの安全を祈願する神事が行われた後、トレイルセンターしんりゅう湖前広場では、地元鬼神太鼓の演奏や子ども神楽の演舞をはじめ、プロバンドによる懐かしのメロディーなどの演奏が行われました。

また、神龍湖では、龍をかたどった龍船が紅白の煙を吐きながら登場。龍船から約3,000個の風船が舞い上がると、観光客から一斉に歓声が上がり、観光シーズンの幕開けを祝いました。



▲龍船が観光シーズンの幕開けを告げる